

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	株式会社シルクファーム
氏名（肩書き）	きぬたに けんいち 絹谷 健一（取締役統括部長）
所在地	鳥取県米子市富益町 4670 番地 7
経営の概要	経営面積：約 36ha（甘藷：15ha、イチゴ：1ha、その他…） 従業員数：27 人（正社員：19 人） * ノウフク連携…NPO 法人 4 団体と連携。作業の委託契約などで連携 * 6 次産業化…自社での食品加工工場を持ち、干し芋を中心に冷凍野菜等を製造し歩留まりを上げる
取組の特徴	以前弓浜半島で栽培が盛んであったサツマイモを主力で栽培し、自社でのキュアリング設備（70 t クラス）と保管庫を完備し周年でサツマイモを提供できる環境を整えている。ノウフク J A S をサツマイモで取得しておりノウフク連携にも力を入れている。 又、日南町・南部町・米子市に農地を持ち活動をしている。 農機具メーカーのクボタ・中四国クボタとの連携を行っている。
今後の展開	マッピングシステムを本格活用し農作業の見える化を行い、生産効率を上げていく。又、ブロックローテーションの構築等を行う。 農機具メーカーとの連携で地域にあった施肥技術等の栽培方法を確立させていく。 更なるノウフク連携を強化し周年で計画的に委託作業を作る。
意見・要望	○ ノウフク連携関係の支援に対して、現在色々な切り口より様々なタイプの支援が増えてきているが切り口が多くどのタイプの支援が自分たちの現場に合っているか判断が付きにくい。又、民間企業が支援を求めた際には急に種類が少なくなり、ハードルが上がる気がしている。 ○ 弊社は中山間地にも農地を持っているが、中山間地の抱える高齢化や担い手不足で集落営農を行っているが中山間地農業の延命であり根本的な解決になっていない気がしている。（将来を見据えた集落営農法人はもちろん存在もしている。）団地化・基盤整備事業での 50 a クラスへの圃場を作り通り農業の可能性や企業の進出を考えた方がよいのでは？ ○ 要望したいことは多くあるが、スマート農業も人間が使うも使う人を育てるのも又人であり結局人と人との繋がりで農業だけでなく事業が繋がっていく。農家は本気で農業を行い（自分の生活が懸かっている）支援する人達も同じベクトルで向かってこなければ人と人の関係が構築出来ないと思う。逆に出来れば解決策が出てくるのでは？

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	ゆうげんがいしゃたなかのうじょう 有限会社田中農場
氏名（肩書き）	たなか さとし 田中 里志 （代表取締役）
所在地	鳥取県八頭町
経営の概要	経営面積：118ha（水稲：103ha、白ネギ：1.5ha、豆類：2.0ha、 飼料用作物：6.0ha） 従業員数：18人（うち雇用：18人（うち常雇：15人）） 生産した農産物の加工品（白ねぎ酢や黒豆茶、米粉など）販売
取組の特徴	地域の農家さんから借り入れた農地で水稲を中心とした農産物の 生産と販売を行っている。 40年前から地元の畜産農家と連携した良質な牛糞堆肥と有機質肥 料を元肥に土づくりに取り組み、農薬を削減し特別栽培の県認証を 受け循環型農業を実践している。 農産物や職場環境、生産現場の安全性を確保するため令和元年に 水稲と白ネギで JGAP 認証を取得。 生産する農産物は全て直接販売しており、主に酒造会社・こだわり スーパー・飲食店・ネット販売での個人消費者に向けて出荷してい る。 また、白ネギを中心に台湾へ出荷をしている。
今後の展開	機械更新に合わせて GPS 自動操舵技術などスマート農機を積極的に 取り入れ、生産性の向上と時間外労働の削減により働きやすい職場 環境を整備する。 酒米生産の拡大と個人客向けネット販売の拡大
意見・要望	○ <u>農地基盤の再整備、大区画化を国の事業として積極的に進めて頂 きたい。</u> 高効率な大型作業機があっても昭和 40 年代後半から 50 年代前半に かけて整備された 30a 基本区画では機械のメリットが活かしきれな い。段差のある地形なので畦を取り払うだけでは済まないのでは農家 サイドでの施工が困難な現状である。今後、担い手農家に農地が集 まって大規模化する中、生産効率を最大限に高める農地基盤が無け れば経営を圧迫すると共に農地管理が行き届かなくなり耕作放棄地

の増大が予想される。また古い規格の狭い農道や進入路は農作業事故リスクが高い。そのため大区画化への農地基盤再整備が急務と考える。

○ 米価安定に向けて余剰米を食料用米の物流から完全に切り離す取り組みの実施へ

余剰米の政府買い上げで健全な需給バランスにすることで米価の適正価格維持に導くことが期待される。

米価が低迷する中で生産コストは増大し気象リスクも高まる昨今、収入保険に加入していても 2 割減までの収入源は保証されない中で経営の体力を擦り減らしている稲作農家が大半であり資金繰りが非常に困難になっている。米価が適正価格（15,000 円/玄米 60kg 以上）で安定すれば稲作農家の経営は安定し稲作農家を志す若手も増えると考える。

○ 余剰の日本酒を政府買い上げで海外の日本酒文化普及に活用し酒米の需要拡大へ

お米の国内需要縮小が避けられない中、日本酒の海外輸出を大幅に拡大することが主食用米と酒米の生産過剰解消に繋がると考える。

日本酒の文化は酒造メーカーや商社の努力により少しずつ海外でも評価されてきているが、まだまだ伸び代は大きいと思う。国策として日本酒の輸出拡大に取り組むことで酒米の需要拡大、米価の適正価格安定に繋がると考える。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	株式会社ファームイング
氏名（肩書き）	いわた しんや 岩田 真也（代表取締役社長）
所在地	鳥取県日南町印賀 2188
経営の概要	経営面積：36.3ha（水稲：12.7ha、飼料用米：20.1ha、そば：3.5ha） 夏秋トマト（ハウス栽培）日南トマト®：ハウス面積1ha 約21,000本栽培 従業員数：8人（正社員：6名 アルバイト：2名）
取組の特徴	当社は地元関係者の理解と出資のもと「県営印賀地区担い手育成基盤整備事業（圃場整備・大区画圃場・パイプライン化）」を行い、地域の担い手組織として「地域を農業で守る」という経営理念のもと「農事組合法人ファーム・イング」を設立。地域・組合員の高齢化等に対応し、事業の継続・発展をさせる為、平成23年度には農事組合法人から株式会社に組織変更し、町外・県外を中心に若手を雇用（正社員平均年齢29歳）。水稲は主食用米と、近年の米価対策として飼料用米も栽培。水稲は、大区各圃場（パイプライン）をメインに栽培管理。ハウス栽培では、日南町ブランドの日南トマト®を栽培。当社の生産物は全てJA集荷。 担い手の確保・雇用創出の為、県や町、JAと協力し、農業研修生の受け入れ・指導・インターシップも積極的に行っている。
今後の展開	圃場整備による、圃場大区画化・水源や水路・農道の改修・改善 トマトハウス（施設園芸）増棟 雇用の拡大
意見・要望	現在、高齢化率の高い中山間地の当法人は高齢化や人口減少により、担い手・農地・農業に携わる人が大幅に減少し、畦畔管理・水路維持管理・鳥獣害対策等、農地や地域の維持管理が困難になってきている。 対策として、今後の人口・担い手減少に対応した省力化・効率化に向けた農地の圃場整備・水源や水路・農道の改修・改善が必要。

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	有限会社ひよこカンパニー
氏名（肩書き）	小原 利一郎 （代表取締役）
所在地	鳥取県八頭郡八頭町橋本 877
経営の概要	1 養鶏業（鶏卵生産：飼養羽数 4 万 5 千羽） 2 通信販売（卵及び加工品等） 3 食品・洋菓子加工製造販売、飲食サービス 4 宿泊業
取組の特徴	1. 養鶏（アニマルウェルフェア～鶏の自然な姿での飼育） 効率化を追求したケージ飼いやウィンドレス鶏舎での飼育は行わず、コッコが自然の風を受け、自由に動き回れる平飼解放鶏舎内での「ケージフリー鶏卵」生産にこだわる。 2. 通信販売（卵及び加工品等） こだわりの卵を求める全国のお客様に届けるため通信販売を重視。 卵に 1 個 100 円という付加価値をつけて全国の 50 万人以上の会員へ直接届けており、現在は卵に加え菓子やパン惣菜などの自社加工品を取り扱いアイテムに加え、事業を拡大している。 3. 食品・洋菓子加工製造販売、飲食施設等 こだわりの卵の店頭販売や卵の生産過程で発生する規格外卵等の未利用資源の有効利用策としてスイーツ等への加工、更には地域の食材等を活かしたレストラン等の飲食施設で提供。従来無かった商品開発に取り組み新たなマーケットを創出。食育の一環として体験教室等も実施している。 4. 廃校となった小学校を改装し農泊施設として再生 農泊施設において、地元の食材を存分に使った料理を提供するとともに、体験を通じた地域住民との交流なども積極的に行っている。
今後の展開	◆大江ノ郷自然牧場が鳥取県を代表する観光地になるよう、商品・施設・サービスを充実していき、年間 55 万人の集客を目指す。 ◆業務の標準化並び設備投資を行うなどして、生産性の向上を図り更なる付加価値向上を目指す。

意見・要望	○ 飼料用子実とうもろこし等の生産・保管・流通等の改善 弊社では 5 年以上前から生産農家とともに子実トウモロコシの普及を推進していました。その間、農政からも生産側への助成がなされ、栽培面積も増えて来た背景があります。またそのタイミングで穀物の高騰もありましたので、一層国内生産への転換の議論も増えてきたのではと推測します。その一方で、使用側の物流コストや保管コストについては、未だかなりの負担になっていますので、今後生産量を増やすためには、何らかの助成をする必要はあるのではと考えています。また、飼料工場での国産トウモロコシの扱いが難しい背景に輸入トウモロコシとのコンタミ問題と聞いていますので、こちらの是正も必要ではと考えます。 その他、私は生産地域に限られる子実トウモロコシ以外にも目を向ける必要があると考えており、限られた日本の農地で安定的に収量確保を目指す必要があります。そのために二毛作を推進し表で食用の米、裏で飼料用の小麦生産を実現し、その助成・法整備・技術指導等を行うなどの革新的な取り組みが必要と考えています。 ○ 農業生産・加工・出荷における生産性向上のための投資促進 生産性の向上は日本国としても早急に取り組む課題であり、これこそ国際競争を勝ち抜くためのポイントであり、国民の所得向上のために非常に重要な政策と考えています。 しかしながら、農業分野では農機具、施設等の新設など従来型の助成は充実していますが、既存事業の生産性の向上に必要な投資に対する助成等が多く見受けられないのと、申請から採択までの時間が必要なため、現在のスピード感では世の中の変化に対応できないのではと考えます。 設備導入後の改善は常に必要になってくるため、投資促進策について総合的な見直し時期に来ているのではと思います。 ○ 定年を迎えた優秀なシニア人材の確保 労働力不足は全産業の問題と考えられますが、農業分野においては非常に深刻な問題になると思います。その対策として生産性の向上が必須ですが、それを実現するためにも人材が必要であることは間違いありません。そこで私個人的な所見になりますが、シニア人材に特化して労働力を確保してはと思います。就農という考えではなく雇用を中心とした施策がいいと思います。なぜなら、60～65 歳で定年を迎えられる優秀な人材は本当にたくさんいると思います。今後人生 100 年時代に向け、また年金受給の更に遅くなることを鑑みると、この世代の方に従来の業種からピポットしていただき、前職で得たスキルを存分に生かし農業分野で活躍をいただけるような、大胆な助成があってもいいのではと考えます。
-------	---

「組織等の概要、取組の特徴」及び「意見・要望」

法人名	とっとりしょうこうかいぎしょ 鳥取商工会議所
氏名（肩書き）	なかやま こういち 中山 孝一（専務理事）
所 在	鳥取市本町 3 丁目 201 番地
経営の概要	役 員：会頭・副会頭（4）・専務理事・常議員（35）・監事 会員数：2,230（2023.3.31 現在） →業種：農業 12、鉱業 3、建設業 494、製造業 214、電気・ガス 7 運輸通信 107、卸・小売 522、金融・保険 61、不動産 53 サービス 727、その他 30 部 会：建設部会、工業部会、流通部会、金融部会、観光・交通部会 サービス部会 委員会：運営員会、企画政策委員会 ローカルフードプロジェクト特別委員会 まちなか賑わい創出特別委員会 コンパクトスマートシティ推進特別委員会 鳥取観光ビジョン策定委員会 役 割：① 政策提言・要望活動 「工業団地の早期整備」「スマートシティの推進」 「ローカル線の維持・存続」… ② 地域振興 ・観光振興 → 「まちなか観光の推進」 「八上比売プロジェクト」 「観光ビジョン策定」 ・まちづくり → 「中心市街地活性化」「空店舗対策」 「鳥取駅周辺再整備構想策定」 ・関係人口拡大 → 「ワーケーションの推進」 ③ 経営支援 ・伴走型支援 → 事業継続、事業計画策定支援 創業支援、農商工連携、商品開発 販路開拓 青年部：204 女性会：43

取組の特徴	○ローカルフードプロジェクト特別委員会 ・商品開発 →パパイアを利用したリキュールの開発、販売 - 米粉・ねばりっこを利用したパンの製造 - おからを活用した「あんこ」の製造 - 鳥取らしさをアピールできる土産の開発（検討中） ○観光・交通部会 ・人手不足、「物流 2024 問題」への対応 ○地域振興 ・まちなか観光消費の拡大 →鳥取砂丘×鳥取城跡×食事・土産等＝鳥取らしさの創出 ・八上比売プロジェクト →出雲大社×白兔神社×売沼神社＝古事記ロマンチックロード - 八上比売×キャラクター×商品開発＝カレー ・関係人口の拡大 →ワーケーション協議会の設立 ○SDG s の推進 ○パートナーシップ宣言 →サプライチェーン全体での共存共栄 （賃上げ・エネルギー等価格転嫁、適正取引） ○経営支援 ・販路開拓 →首都圏バイヤーとの商談会、セミナー開催（B2B、B2C） ・商品開発 →エゴマを利用したミニ煎餅、しょうがシロップ - かき餅・ラッキョ等食品パッケージの改良 ・生産性向上 → 白ネギ用ローラー培土器 ・事業引継ぎ、経営支援
今後の展開	・観光振興（行政主導住民参加型 → 民間主導行政支援型） → ビジョン・戦略策定（スポットでの受入から面での受入） - 地域観光推進協議会（仮称）の設立 → 地域×住民×産業
意見・要望	・地域全体での取り組みに対する支援 → 地域全体での取組とするためには、リーダーシップをもって強かに推進していく人やそれぞれの業界に精通し、他の業界と結びつける人

	（リーダーやコーディネート等）が必要となりますが、現状、他業務の片手間にやらざる負えない状況で中途半端な取り組みしかできない状況です。人材の確保がキーポイントになりますが、地域でこのような人材を確保することは困難です。 都市部からの人材の呼び込みも含め、人材の確保（財政的な面も含め）について支援していただけないか。
--	--